

# 光の子



絵・中島 英子

新しい  
つぎへ！

## 聖なる者となれ (ペテロの第一の手紙)

理事長

福島 勲

発行／社会福祉法人 光の子どもの家  
編集／光の子 編集委員会  
〒349-11 北埼玉郡大利根町砂原277  
TEL／0480-72-3883  
振替／東京 3-128022  
印刷／社会福祉法人 共愛会

（文）

モーセはホレブ山で、柴の燃えている所で神の声を聞いた。靴を脱ぎなさい。あなたの立っている場所は聖なる地であると。（出エジプト・三・五）

ホレブの山が聖なのではない。神が自らを顯示され、存在されるところが聖なのである。また天地創造に際して、六日で完成され、第七日を安息の日とされた。十戒で安息日を覚えて聖とせよと命じられる。（出エジプト・二〇・八）

前のところでは空間に、後のところでは時間の中に聖が組みこまれている。

ラテン語の時間（Tempus）と聖域または神殿を指す（Tēpūs）語の語源の類縁から両者に注目して聖について論じている学者がいる。

時空の中で決定されるものはまさに現実的存在といえる。神殿と時の交差あるいは相重なるところ、今日われわれの現実では、教会における礼拝であ

る。聖なる場所として聖別された教会で、聖なる日（キリスト者のわれわれは、キリストの甦りの日、主の日としての日曜日である）に礼拝式が行われる。われわれは神の聖を具体的にここで経験するのであるが、靴を脱ぐとか、心に覚えて聖とせよと命じられることをどのように受け止めるのか。

神の国への招きと選びについてのイエスの譬に目を注ごう。王子の婚宴に招かれた者たちがそれぞれの理由で出席しないので、王は誰かれなしに招き入れた。だが誰もが礼服を着ていないので、王は激しく怒ったとある。（マタイ・二二）

ラビたちの解釈は、ここで言う礼服とは、まことの悔改めであり信仰であるという。俗なる者が聖なるものの前に立って、為すべきなにものもないが、ただただ聖なることを認めて、悔改め畏敬の念を深めることである。礼拝に心の礼服を

この、一見分かりにくいと思われがちなK君の絵にも、ファンはついている。固定したファン、行きすりの人のファン。ある日、K君の個展の会場に一人の紳士が現れた。中年の堂々とした風体である。そして、若いきれいな女性を伴っている。

方の名前を明かさない。K君の方はすでに、案内状などで名前も経歴も明らかにしているのに、ある。つまり、この人は美術評論家ではなく、単なる普通の鑑賞者だったのである。そしてその日は、その二人はそのまま帰ってしまった。

## K君の個展

# K君の個展

卷之三

日島

画家の上村かじ個展の案内が来た。またやつてますと手書きしてあつた。

そのことは何の不思議もない。だが、そこからが普通の人と多少違っていた。

で、彼は力作を発表した。大小さまざま、油絵や水彩と、かなり自由に制作をしている。画風は全て抽象で画面は強い色調。熱い空気をかもし出している。

君に何やかやと質問をしてくる。しかも実に的を得ていて、美術に詳しいのである。K君は、ついにこれだけは美術評論家だと思った。もしこの人が評論家なら、なにかの雑誌などに採り上げてくれるかも知れない。だとしたら、この個展も、なかなか良い方向に向かっている。影響力のある評論家の一言が、一夜にし

この、一見分かりにくいと思われがちなK君の絵にも、ファンはついている。固定したファン、行きすりの人のファン。ある日、K君の個展の会場に一人の紳士が現れた。中年の堂々とした風体である。そして、若いきれいな女性を伴っている。

帰つてしまつた。

分の名前を明かさない。K君の方はすでに、案内状などで名前も経歴も明らかにしているのに、つまつた。つまり、この人は美術評論家ではなく、単なる普通の鑑賞者だったのである。その日は、その二人はそのまま

もらつた。「例の紳士なんですが、会場へ三回目に来て、絵を売つてほしいって言うんですが、どうしましよう。」私は大いに喜んで「売つた方が良いよ。その金で又絵を勉強しなよ。」と声を上げていた。「ですけれども、どうもあの紳士には、私は深い暗闇のようなものを感じるんですけれど。」とK君は心配そうであった。私は無責任に「大丈夫だよ、心配ないよ、売つちゃえ、売つちゃえ！」。ところでいくらで売れるんだい。」と

何日か後、K君から個展終了の電話が入った。「ところでK君、大金持ちになっちゃつたねえ。」と私は冷やかし気味に言つてみた。「いやあ、作品の送り先には、そういう人は存在しませんって、品物がそのまま送り返されちゃつたんですよ。」K君はまるで他人事のように言つて笑つた。そして「短い間でしたけど、良い夢を見せてもらいました。」とつけ加え、一言のダチも、恨みごとも言わなかつた。

この、一見分かりにくいと思われがちなK君の絵にも、ファンはついている。固定したファン、行きすりの人のファン。ある日、K君の個展の会場に一人の紳士が現れた。中年の堂々とした風体である。そして、若いきれいな女性を伴っている。

帰つてしまつた。

分の名前を明かさない。K君の方はすでに、案内状などで名前も経歴も明らかにしているのに、つまつた。つまり、この人は美術評論家ではなく、単なる普通の鑑賞者だったのである。その日は、その二人はそのまま

もらつた。「例の紳士なんですが、会場へ三回目に来て、絵を売つてほしいって言うんですが、どうしましよう。」私は大いに喜んで「売つた方が良いよ。その金で又絵を勉強しなよ。」と声を上げていた。「ですけれども、どうもあの紳士には、私は深い暗闇のようなものを感じるんですけれど。」とK君は心配そうであった。私は無責任に「大丈夫だよ、心配ないよ、売つちゃえ、売つちゃえ！」。ところでいくらで売れるんだい。」と

何日か後、K君から個展終了の電話が入った。「ところでK君、大金持ちになっちゃつたねえ。」と私は冷やかし気味に言つてみた。「いやあ、作品の送り先には、そういう人は存在しませんって、品物がそのまま送り返されちゃつたんですよ。」K君はまるで他人事のように言つて笑つた。そして「短い間でしたけど、良い夢を見せてもらいました。」とつけ加え、一言のダチも、恨みごとも言わなかつた。

とであり、この聖なることへの畏敬の念こそは、たとえ自らは危険に晒されても、ないがしろにはできないものであった。聖なる者となれと命じられるとき、外面的また倫理的きよさを求める前に、まず眞実な聖なる神を認め敬うことである。

入所当初の童顔が昨日のことのように思い起こされるとともに、今では私の背丈を超えて逞しい青年に成長した姿を目の辺りにするとき、開設〇〇年目の歳月を改めて確認させられます。そして、彼らが社会の荒波に出会い中で、幾度となく失敗や挫折を経験すると考えるとき、アフター・ケアの重要性を思うものです。また、そのような困難を覚えたとき、率直に相談や助言を求めてくる信頼感が、この九年間の闘争の中で育つたかどうか若干の不安を覚えます。

おそらく、私どものこれまでの養育の取り組みは、彼らが社会と立ち向かうとき不十分なものでありましょう。

いつでも相談や助言に乗り、どんな困難にも一緒に力を合わせて対処すること、最後の最後までとことんつきあうばかりであります。もちろん、事後処理にならぬよう、普段から可能な限り安否を問うことも心がけるつもりです。それにもしても、彼らの人生航路において、その基礎づくりの大切な時期を託され、その養育をしてしまった事実の重みに改めて身の引き締まる思いです。一回きりのやり直しのきかない育ちの厳しさと私たちの思いを育む力に敬服をも覚えるものです。

「掃き溜めにえんど豆咲き  
泥沼から蓮の花が育つ  
人皆に美しき種子あり

た。あれからや十年の歳月を重ねました。草創期でもあり無我夢中の、またあつと言ふ間の十年ともいえます。昨今、私の取り敢えずの役割と任務は果たせたのではないかと思案する中で、次の道が備えられました。

この三月末で施設長を辞し、四月から保母養成短大の教師に復帰します。今後は、一支援者として祈りながら、役員として施設を支えて参ります。

これまでの皆さまのご厚誼に衷心より感謝申し上げますと共に、今後とも子どもたち、職員たちに暖かいお支えを賜りますよう心よりお願ひ申しあげます。長い間ありがとうございました。

巣立ち

旅語長今關公廟

明日何が吹くか  
彼らの可能性を信だ

明日何が吹くか  
」





この状況はそのまま養護施設で生活しなければならない子どもたちの状況に重なる。何よりも、衣食住、生命身体の安全の保障が最優先する。そして、子どもたちの失った家庭に代わる生活場面と家族に代わる関係の生成こそが養護施設の第一議的な社会的使命である。

子のような関係に限りなく近づかなければならぬのである。

ふつう、親は自分の生んだ子どもを他家の子どもと同じように関わり均しく愛するだろうか。決してそうではない。自分の子どもだけが可愛いく、自分の子どもだけのよりよい成長のために全力を挙げるのではないか。そのような親の偏愛の中で私たちは保護され育てられて来た。養護

に心を込めてお土産を用意する  
などが大切なのだ。そうされることは、  
親に持ったような、みんなと同じ  
ではない、ただ私が愛されて  
いるという経験をする。

担当されている子どもたちみ  
んなが、ただ私が愛されている  
と信じられる関わりがなければ  
養育は成り立たない。普通、養  
護施設には沢山の「みんなと一

子どもは愛しさえすればよく育つかどうかは分からぬが、愛されなければ育つことはない。愛はすぐれて無償の行為なのである。養育に最も欠けてはならないエッセンスは労働とは次元の違う無償の行為なのである。

名優のような仕事と感じない働き、感じさせない関わりこそが養育に不可欠であり、専門家の「仕事」なのである。

家族 その八 「情緒7」 偏愛のすすめ

11

月五日、降りしきる雪の中、学校へ向かう車を運転し、六年前、初めて親元を離れて知る人の誰一人居ない北へたどり着いたとき、確かに言が残っていたことなどを語っていた。

思ひはそれから今まで心から離れないでいる。

今、暮らしを接して関わっているこここの子どもたちもいつかそんな思いを持つのだろうか。

もうしばらくで高校を卒業しここを出発していく悟と匠も、その後の生活のための準備も忙しくなつてきている。

数日前、悟の生活の準備について担当保母と悟そして家の大人たちとで話し合いを持った。

一日の生活リズムを維持するこ  
と・。学校が休みになると、  
朝の食事さえ一緒にとることが  
少なくなる始末なのである。  
このところ常習となつている  
朝寝坊の折りに見せる悟の表情  
には、この先のことが暗い思い  
に変色させらてしまつのである。  
今ここにいるからさせてあげ  
られる、少しは自由な・・ある  
意味では自堕落な生活・・と思

食いを重ねる時間は随分となくなっている。

そんな様子を見ていると、ここでの九年あまりの時間の積み重ねは、確実に悟の血肉となり、やる気を萎えさせ絶望に近い思いをさせた数々の失敗も、悟が社会に出ていくためにしなければならないことがらであつたのだろうと、思えるようになつてきた。

そして、もう、その日はもうすぐやってくる。さあ！悟、がんばれ！。

いつもは寝ぼけで、寒さに負けて布団から出てくることの出来ない子どもたちに、「ホラ、雪だよ、真っ白だよ!」と告げる。窓にかけ寄り歎声を上げて

気にならなかつて、いた。

新しくなった場所に生活全部を移すことのあわただしさと対になるようになじむおそつてくる孤独感・孤立感でやたらに家が恋しく思われたり、情けない心細さにおそれたりしていた。

ただ、親への感謝の思いが鮮やかに心をかすめたのは初めての経験だった。独りにならなかつて、いた。

さすがに担当の竹花の言葉には、細やかな心配りが感じられる。面接時に聞いた職場の寮は三畳間だとのことで、持つていい荷物の選択には置いていくもののへの思いを断つ作業が彼には困難な様子であった。

ここでする生活をよりよくするための話は、熱っぽく竹花保母のリードで続いた。

短い間にある様々な人々への

「こにいる間だけいいから、みんなと一緒に、遅い時間にさせてもらえなかっただけでいいから、」とほんとど、話をして折り合うことなど得意中の得意だった悟がぽつり、と言った。

少なくともこれだけはするといつたことだけを守ることを確認して話し合いは終わった。それからの悟は、約束したこのほどんどを確実にこなし、

幸せであるように

白石  
輝雄

現場から

私もそうたつたのだが、ここを出てからの生活や仕事などのことは全く想像もできないよう

いながら、でも、これからは社会生活のためににはこんなことでは・・と、思いは行き来してし

日誌抄

十一月一日  
一九九五年一月末日まで

- 第十四回感謝の集い。感謝礼拝  
第二部の祝会は、好天に恵まれた園庭で、有限会社田島モータース社長田島英世氏、アルトサックス奏者の飯田洋司氏、武藏暴れ太鼓のみなさん、株式会社東京電力ヴォランティアグループ『はむこ会』、奉仕の箱アップルクラブ、株式会社オールドックセンター代表取締役藤井多嘉史氏に感謝状をお受けいただき、一二〇余名のご参集を得てにぎやかに、和やかに・。
- 九日 吉田孝子氏より毎月の「子ども世界」を。今月号で休刊とか漏れ聞き、そんな困難の中でも、感謝を捧げ、捲土重来を期待し祈る。
- 十一日 自立訓練中の高校生、生活不安定で本家に移動。
- 十五日 埼玉県盲人福祉ホームよりきれいな布団をたくさん。
- 二十日 アップルクラブの光の

- 十一月三日 第四十回理事会。  
九四年度第一回予算補正案承認。

○第十回感謝の集い。感謝礼拝

- 第二部の祝会は、好天に恵まれた園庭で、有限会社田島モータース社長田島英世氏、アルトサックス奏者の飯田洋司氏、武藏暴れ太鼓のみなさん、

- 二千日 石毛照子保母と元職員坂巻直之氏の結婚式。職員子どもたち関係者の祝福を受け福島理事長の司式、菅原夫妻媒酌で世田谷平安教会で。

二三日 五米淑子元保母と桧山真元指導員の結婚式が職員子どもたち関係者の祝福を受け菅原夫妻の媒酌で東日本宇都宮ホテルで。厳粛に和やかに。

一二月一日 埼玉県指導監査。

八日 元タカラクラブ松永実枝子氏より詩美にステキなカードとプレゼントが。感謝。

十日 フエリス女学院短大より三名がヴォランティアに。

十五日 高山嬉父一周年記念会。礼拝を捧げしめやかに。

二四日 クリスマス・イヴ。讃美と聖書朗読とメッセージがぎっしりのファンタステイクなキャンドルサーキュイズ。

二五日 東大宮教会クリスマス礼拝で福島文明洗礼を。

○学校の教師やお世話になつている方々、子どもたちの家族友だちなどがぎっしりのクリスマスペーページントと祝会。

- (株)ベルアネックスよりスティキな贈り物を。年末も。

- 二八日 中島睦夫先生と谷本画伯も来訪してもちつき。

- 二九九五年一月一日 元旦礼拝と第一食を全職員と残つている子どもたち、家族たちやお客様などたちと。お年玉も。

- 五日 お正月気分をぶつ飛ばし三学期頑張ろう会。もう十回

- 目荒巻さんとケンチヤンも。

- 十五日 香島将司の祖父死去。

- 一七日 県内同仁学院より指導員三名が来訪し共に研鑽の一泊二日。熱っぽく。

- 二十日 川越児童相談所より来訪して子どもの情報交換と生活指導についての協議。

- 二十一日 沢山のご支援を受け新しい年が始まりました。感謝。(くら)

- 二二日 川越児童相談所より来訪して子どもの情報交換と生活指導についての協議。

- 二三日 沢山のご支援を受け新しい年が始まりました。感謝。(くら)

- 二四日 沢山のご支援を受け新しい年が始まりました。感謝。(くら)

- 二五日 沢山のご支援を受け新しい年が始まりました。感謝。(くら)

- 二六日 沢山のご支援を受け新しい年が始まりました。感謝。(くら)

- 二七日 沢山のご支援を受け新しい年が始まりました。感謝。(くら)

- 二八日 沢山のご支援を受け新しい年が始まりました。感謝。(くら)

- 二九日 沢山のご支援を受け新しい年が始まりました。感謝。(くら)

- 二九九五年度も基準外職員の確保のためにバザーを行います。

- 不要品などのご協力をよろしくお願いします。

- 送り先は光の子どもの家氣付。

- バザー実行委員会

反射光

☆あの大地震災は、この国が物質に溺れ捨てたへお互いさま)のような大切な情緒的な何かを蘇生させてくれた☆

二月の二日間、東大宮教会の教友水野三恵氏の計らいで(働き場)を提供され、高校卒業間近の二名と神戸市東灘区の小学校に救援の図書を搬送した☆費やした往復三十数時間、運転中の私の相手を交代で務める等、若者らはこれまでにない心遣いを何くれとなく示してくれた。特に、十余時間走り放しの深夜に、到着した公園の避難センターの片隅にワゴン車で野宿をしたガラス拭くと、何と!公園の舗道にうつすらと霜のかかつた寝袋二つ横たわっていた。行つて車に促す。「いいんですか、僕たちの軒凄いんですよ、また夜が明けると運転でしょ?」

胸が熱くなり抱きしめたい激情に駆られた☆そんな人の思いを大切に社会へ出発せよ。心から! (哲)

一九九五年度も基準外職員の確保のためにバザーを行います。

不要品などのご協力をよろしくお願いします。

送り先は光の子どもの家氣付。

バザー実行委員会

一九九五年度も基準外職員の確保のためにバザーを行います。

不要品などのご協力をよろしくお願いします。

送り先は光の子どもの家氣付。

バザー実行委員会